

第2回「食生活ジャーナリスト大賞」受賞者決定

「食生活ジャーナリストの会」(JFJ・約150人)は、第2回「食生活ジャーナリスト大賞」(2017年度)の受賞者を15日、決定しました。この大賞は「ジャーナリズム」部門と「食文化」部門の二部門から成り、それぞれの分野ですぐれた業績や活動を残している個人または団体を顕彰するものです。第2回 大賞受賞者は以下の2個人、1団体に決定しました。

食生活ジャーナリスト大賞とは、食に関する情報発信や食文化(食育、料理・調理、地場産業の振興、食文化の継承など)の分野ですぐれた活動や業績を残している個人または団体を顕彰するもので、2016年度に創設。

第2回大賞は一般社団法人Jミルクと東洋ライス株式会社の協賛を得ています。

*** 受賞者 ***

■ ジャーナリズム部門

高橋博之さん (「東北食べる通信」編集長)

■ 食文化部門

井出留美さん (ジャーナリスト、(株)office3.11 代表取締役)

■ ジャーナリズム部門・特別賞

日本生活協同組合連合会「家庭の食事からの放射性物質摂取量調査」

*** 授賞式のご案内 ***

【名称】第2回「食生活ジャーナリスト大賞」授賞式

【日時】3月28日(水)午後6時 受付 午後6時30分 開式

【場所】毎日パレスサイドビル9階 レストラン「アラスカ」
(東京都千代田区一ツ橋1-1-1、東西線竹橋駅下車)

【会費】5,000円(食事と飲み放題)

※ 事前申し込み必要: JFJ事務局まで fj-shoku@t-net.ne.jp
(一般の方も参加できます)

【取材】報道関係者の取材を歓迎します。



受賞者紹介

■ジャーナリズム部門

<個人>

高橋博之さん（「東北食べる通信」編集長）

<授賞理由>

高橋さんは2013年に「東北食べる通信」を創刊、その後、「全国に同様の情報発信を広める拠点となる「日本食べる通信リーグ」を創設した。受賞理由は、生産者を応援する「食べる通信」という媒体を通じて、農山漁村の活性化に貢献し、消費者と生産者が互いに支え合う従来にないフロンティアを築いた功績が挙げられる。

略歴＝1974年生まれ、岩手県花巻市在住。岩手県議2期を経て事業家に転身。「食べる通信」を全国37地域に拡大。著書に『都市と地方をかきまぜる「食べる通信」の奇跡』や『だから、僕は農家をスターにする』がある。取材などの問い合わせは、info@taberu.me

■食文化部門

<個人>

井出留美さん（ジャーナリスト、(株)office3.11 代表取締役）

<授賞理由>

井出さんは、『賞味期限のウソ 食品ロスはなぜ生まれるのか』（幻冬舎新書）の著書で知られる。受賞理由は、食品の大量廃棄が以前から指摘されてきた中、ヤフーニュースの執筆や講演などを通じて、食品ロス問題を全国的に注目されるレベルまで引き上げた功績が挙げられる。

略歴＝ライオン、青年海外協力隊を経て、日本ケロッグ・広報室長などを歴任。東日本大震災で食品廃棄量の多さに憤りを覚え、自らの誕生日を機に「(株)office3.11」を設立、食品ロス問題に取り組む。取材など問い合わせは、<http://www.office311.jp/contact.html>

■ジャーナリズム部門・特別賞

<団体>

日本生活協同組合連合会の「家庭の食事からの放射性物質摂取量調査」

<授賞理由>

特別賞は今回が初めて。福島第一原発事故が生じた2011年から、食品中の放射性物質への不安が続く中、全国19都県の約250世帯（年度により世帯数は異なる）の2日分の食事に含まれる放射性物質を継続して測り、毎年公表。主要メディアがあまり報じなかった一般家庭の食事に含まれる放射性物質の科学的な情報発信に努めてきたことが高く評価された。2011年～14年の調査結果は、日本食品衛生学会から「論文賞」を受賞している。

問い合わせは、同生協連広報部（03-5778-8106）

<食生活ジャーナリスト大賞に関するお問い合わせ>
JFJ 代表幹事 小島正美 TEL:080-8469-6522